

備前市事務事業評価表

| | | | |
|----------|-----------------|----------|--------------|
| 事業の概要 | | コード | 01-01-03-02 |
| 事務事業名 | 建築指導事業 | 根拠法令・要綱等 | 建築基準法第6条第1項 |
| 事業開始年度 | S.25 | 問合せ先 | 都市整備課 |
| 大項目 基本目標 | 安全で快適に暮らせるまちづくり | 担当課(室) | 都市整備課 |
| 中項目 基本施策 | 生活しやすいまちづくり | 職・氏名 | 都市建築係長 磯本直紀 |
| 小項目 施策 | 地域地区 | 電話 | 0869-64-1834 |

| | |
|--------------------------|---|
| 事業の実施 | |
| 対象(誰・何に対して) | 市内に建築する方 |
| 目的(何のために) | 建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を遵守することによって、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資するため |
| 行政活動(どのような方法で) | 窓口、電話による建築確認申請の相談並びに申請書類受付及び都市計画上の支障の有無、敷地及び地域に関する諸法令について書類審査後、市長の副申書を添付し県に送付。県が確認後、申請者に確認済証、検査済証交付。台帳記載。 |
| 事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか) | 建築関係法令による申請をスムーズに行えるように支援する |

| | | | | | |
|-------|-----------|--------|------------|-----------|-----------|
| 事業の実績 | | | | | |
| 活動実績 | 実施項目 | 単位 | 平成17年度実績 | 平成18年度実績 | 平成19年度実績 |
| | 建築確認申請 | 件 | 86 | 69 | 73 |
| | 建築工事届 | 件 | 37 | 18 | 14 |
| | その他建築関係申請 | 件 | 39 | 34 | 32 |
| | 相談件数 | 件 | 203 | 171 | 212 |
| | 直接事業費 | 千円 | 76 | 214 | 102 |
| | 人件費 | 千円 | 10,826 | 8,286 | 3,836 |
| | 事業費計 | 千円 | 10,902 | 8,500 | 3,938 |
| | 国県支出金 | 千円 | 76 | 214 | 102 |
| | 受益者負担債 | 千円 | | | |
| 一般財源 | 千円 | 10,826 | 8,286 | 3,836 | |
| 必要人員 | 人 | 1.35 | 1.02 | 0.51 | |
| 結果指標① | 結果指標名 | 単位 | 平成17年度実績 | 平成18年度実績 | 平成19年度実績 |
| | 受理及び相談件数 | 件 | 365 | 292 | 331 |
| | 結果指標量 | 件 | — | — | — |
| | 対前年比 | % | — | 80.0% | 111.8% |
| | 活動コスト | 円 | 10,902,000 | 8,500,000 | 3,938,000 |
| 結果指標② | 結果指標名 | 単位 | 平成17年度実績 | 平成18年度実績 | 平成19年度実績 |
| | 対前年比 | % | — | — | — |
| | 活動コスト | 円 | 29,868 | 29,110 | 11,897 |
| | 対前年比 | % | — | — | — |
| | 活動コスト | 円 | — | — | — |

| | | | |
|-------|---------|--------|------------------|
| 事業の成果 | | | |
| 成果指標名 | 審査及び回答率 | 式又は説明 | 審査及び回答率/受理及び相談件数 |
| 成果指標量 | 17年度 | 18年度 | 19年度 |
| 対前年比 | — | 100% | 100% |
| 到達目標値 | 100 | 到達目標年度 | 毎年度 |

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成19年度事業)

| | | | |
|-------------------------------|----------------------------------|--|---|
| 事務事業の評価 | | 妥当性評価<A~E> | B |
| 目的 | 関法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令) | 課題認識 | |
| | 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である | 建築基準法により法令で定められており、目的・対象とも妥当であり、市が関与すべきものである。 | |
| | 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている | | |
| | 事業開始当初の目的から変化している | | |
| | 対象を見直す必要がある | | |
| 対象を見直す必要がある | | | |
| 行政活動 | 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない | 効率性評価<A~E> | |
| | 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない | B | |
| 事業の意図する成果 | 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない | 課題認識 | |
| | 本市が関与しなければならない事業である | 当事業は対象者からの申請があつてはじめて事務処理が発生するため、計画的に処理することができない。県に許認可権限があるので連絡調整をとりながら進める必要がある。単位当たりコストは年々増加しているが、受理件数は毎年不確定でありコストが上昇しているとはいえない。 | |
| 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい | | | |
| 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である | | | |
| コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい | | | |
| コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい | | | |
| コスト | サービスを低下させずにコストを低減することは困難 | 有効性評価<A~E> | |
| | 受益者負担額を見直す余地がある | B | |
| 効率性の評価 | サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない | 課題認識 | |
| | 最適な手段を求めて職場内で改善している | 申請件数は年度により増減しているが、毎年度申請があつたものについては、適正に処理しており目的は達成している。 | |
| 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある | | | |
| 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている | | | |
| 事業に関するOJT(職場研修)は行われている | | | |
| 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい | | | |
| 職場 | 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである | 有効性評価<A~E> | |
| | 成果指標は前年度より向上している | B | |
| 目的達成度 | 成果は向上しており今後も向上する見込みである | 課題認識 | |
| | 今後、成果指標は向上する余地がある | 申請件数は年度により増減しているが、毎年度申請があつたものについては、適正に処理しており目的は達成している。 | |
| 事業について積極的に情報提供している | | | |
| 事業実施等で積極的に市民意見を反映している | | | |
| 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している | | | |
| 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている | | | |
| 成果向上の可能性 | 市民参画度 | 課題認識 | |
| | 市民参画度 | 申請件数は年度により増減しているが、毎年度申請があつたものについては、適正に処理しており目的は達成している。 | |

| | | | |
|---|---------------------------------------|--------|---|
| 平成20年度の状況 | | 説明 | 窓口、電話による建築確認申請の相談並びに申請書類受付及び都市計画上の支障の有無、敷地及び地域に関する諸法令について書類審査後、市長の副申書を添付し県に送付。県が確認後、申請者に確認済証、検査済証交付。台帳記載。 |
| <input type="checkbox"/> 重点化している | <input type="checkbox"/> 休止している | 結果指標量① | 結果指標量② |
| <input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している | <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している | <input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了 | 1 | 100.00 |
| <input type="checkbox"/> 事業を縮小している | | 成果指標量 | |

| | | | |
|---|--|-----------|---|
| 総合評価 | | 評価区分<A~E> | B |
| 設計者及び建築主には、申請書提出前に情報提供(都市計上の規制、他関係法令)することによって、効率的な事務処理ができる。 | | | |

| | | |
|--|---------------------------------------|--------------|
| 平成21年度以降の方向性 | | 平成20年度で廃止・完了 |
| <input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) | <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する | <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する | |
| <input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する | <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する | |
| | | |

| | | | |
|---------------|------|------|--------------|
| 平成21年度以降の改善事項 | | | |
| 評価の視点 | 改善内容 | 改善時期 | 改善により期待される効果 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |